

きょうの紙面

**オリパラ
大百科**

パラポート
8面

おせち徹底研究 3面

こ
込められた願い

特集・明智光秀 4・5面

は せ が わ ひ ろ き
長谷川博己さん

論語くん 7面

おお にん げん
大きな人間になる

◇プロフィール◇

1948年生まれ、大阪府吹田市出身。京都大学大学院修士課程修了。工学博士。旭化成名誉フェロー。旭化成川崎技術研究所第一研究室に所属していた1985年、リチウムイオン電池の開発に成功した。

あの人に会った 特別版

ノーベル化学賞受賞 吉野彰さん

Asahi KASEI



藤田直さん(左) 会に行った人

東京都練馬区立早宮小5年

失敗恐れずチャレンジ

もの作りへの思い支えに

2019年のノーベル化学賞を受賞した吉野彰さん(71)は、スマートフォンなどに内蔵されているリチウムイオン電池を開発したことが評価されました。算数や理科が好きな小学5年生で、将来の夢は学者という毎小特派員、藤田直さん(11)＝東京都練馬区＝が吉野さんをインタビューしました。

「なせノーベル賞をとれたと思いますか?」という質問に「今年ね、とれそうなる予感があった気がするんだ」と二つ理由を挙げてくれました

藤田さんが最初に尋ねた

た。

一つは、リチウムイオン電池がノートパソコンやスマートフォンなどに使われ、モバイルIT社会を実現するため役に立っていること。もう一つは、リチウムイオン電池が、風力発電などの蓄電池として使われるようになり、環境にやさしいという点で注目されたことです。

「5年くらい前から、リチウムイオン電池が地球環境にも貢献していると言われ始め、そろそろ(ノーベル賞がとれる)かなと思っていました」(笑い)

吉野さんは京都大学大学院を修了後、大手化学メーカーの旭化成に入社しました。企業での研究を選んだのは「研究成果が製品になる

って世の中に出ていく『もの作り』をしたかったから。そこにおもしろさを感じた」と言います。

リチウムイオン電池の開発を始めたのは33歳のときです。電池の開発に必要な電気化学の分野は専門ではありませんでしたが、挑戦を始めました。「ノーベル賞受賞者が、受賞対象になった研究を始めた年齢の平均は30代半ば。ある程度社会のしくみもわかり、知恵もつき、仕事での権限も持てる時期です。失敗を恐れず、周りが反対してもチャレンジしようとするエネルギーもあります。つまり本番は35歳くらいがスタート。それまでに自分の目標を実現できるように、いろいろな勉強をしてほしいですね」。学者を目指す藤田さんへのアドバイスです。

宿題が出た!

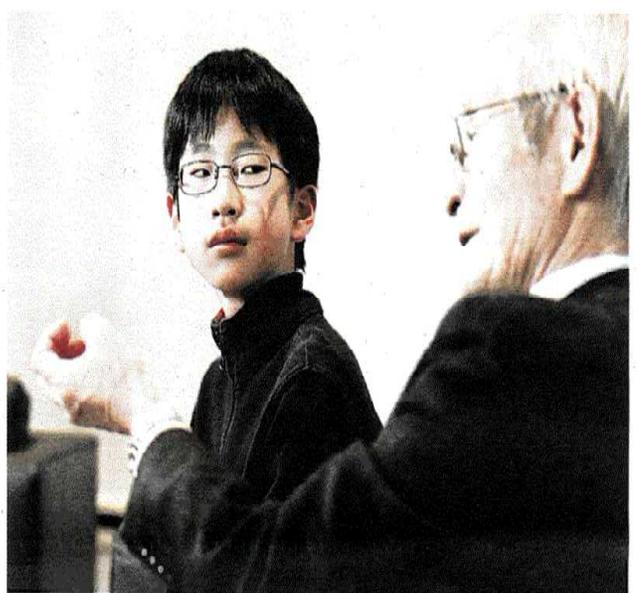
インタビューを終え、部屋を出る吉野さんが藤田さんの方へむき直り、宿題を出しました。「無重力空間でロケットに火をつけるとどうなるかな」。毎小読者の皆さんもぜひ考えてみてください。

＝2面に＝問一答

毎小特派員の藤田直さんのインタビューに笑顔で応える吉野彰さん(右)



あの人に会った 特別版



ノーベル賞のこと、子どもの頃のことを吉野彰さん(右)に聞く毎小特派員の藤田直さん

11面からつづく

ノーベル賞が発表された10月以降、さまざまなメディアで子どもたちへの温かいメッセージを語っていた吉野彰さん。緊張していた毎小特派員の藤田直さんに終始にこやかな笑顔を向け、質問に答えてくれました。

子ども時代は外遊びに夢中

藤田さん 小学生のときに夢中になっていたことは何ですか？

吉野さん 私は大阪の吹田市千里山の出身です。子どもの頃は、周囲は竹やぶだらけ。自然に恵まれた場所でした。トンボやセミ、カブトムシを捕ったり、ザリガニ

釣りをしたり、外で遊ぶのに夢中でした。特に理系の勉強に関心が強い子ではなく、自然の中で遊ぶことがとにかく多かった。好奇心は強

くなって何度も読み、科学について面白いなと思いました。子どもの頃って、一つのことに関心をもつようになる、それが得意科目になるよね。

えることで、こういうことかなという仮説をたてるんですよ。次はそれを実験するなり調べるなりする。仮説と違ったら修正します。その繰り返

吉野さん 情報がたくさんあふれている現代社会では、すべてのことは知り尽くされた。おれたちはもうやる

山とある大発見のチャンス

挑もう、小学生のみみんな

かったです。

藤田さん 小学生の頃の得意科目は何でしたか？

吉野さん やっぱ理科かな。まるでためだったのは図画工作と音楽(笑)。小学校3〜4年のときに、担任の先生に薦められてマイケル・フアラデーの「ロウソクの科学」という本を読み、夢中

失敗、反省、修正かさねて、もの作り

藤田さん 独創性のあるものを作るにはどうしたらいいでしょうか？

吉野さん まずは好奇心だね。なぜ？なぜ？なぜ？なんです？ということから始まります。なぜだろうと考

返して正解にたどりつくよね。一回考えて一発で正解にたどりつくなんてありえないんだ。失敗しないため。

失敗と反省と修正のくりかえし。研究というのはそのくりかえしが必要で、どんな人も独創性のあるものなんて作れません。

藤田さん アイデアが出な

ことがない。そんな受け取り方をしている人も多いのではないかと思うけれど、自然の摂理はそんなものではないです。人類が理解できていることは、まだほんの1%か2%くらい。未来の大発見や未来のノーベル賞クラスの大発

明のチャンスは、ごまんと残っています。

まずは、自分で得意なものを見つけてほしい。理科でもサッカーでも何でもいいから、いろいろなかことに好奇心をもち目標を見つけることが大事です。何か目標があってそれを実現するために勉強をしてほしいです。

会ってみて……

僕の緊張をほぐすように優しく話して下さったので、たくさん質問できました。研究者としても、人間としても吉野先生は、すごいなと思いました。先生を目標にまずは35歳まで、いろいろなことに挑戦したいです。

解決するようなものが作れる。地球環境問題に対する答えはいずれ誰かが出すでしょう。遠い未来ではありません。今の小学生くらいの子どもたちが社会に出て、そういう問題を解決してくれるのではないかと期待しています。